

令和5年度研究推進計画

学校名 海田町立海田東小学校
学校長 齊藤 知法

研究内容・方法の概要

1 研究主題

主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成
～児童の考えを繋げ、考える視点を焦点化させる発問の工夫～

2 研究主題設定の理由

昨年度、本校は国立教育政策研究所の「教育課程実践検証協力校」として指定を受け、「算数科」のデータの活用領域を柱とした教育課程の編成に取り組むとともに、タブレットを効果的に活用しながら、目的に合ったデータの収集・分類・整理・考察を行う統計的な見方・考え方を生かした学習過程の工夫により、問題解決を図る授業づくりを推進してきた。また、道徳教育推進拠点地域事業の連携校として「特別の教科道徳」を、海田町グローバル推進協議会の一環として「外国語活動」の授業研究を行い、「主体的・協働的な学びのある授業づくり」をめざして取り組んできた。さらには、育てたい資質・能力を「知識・技能」「思考力・表現力」「主体性・自己理解」に焦点化し、育成を目指してきた。

授業作りでは、単元構成や学びのサイクルによる学習過程の工夫を通して、課題を追究する力を育成する「課題発見・解決学習」の授業づくりを行うとともに、アンケートやレディネステストにより児童の実態を把握し、教師による発問や話合いの形態の工夫を行った。また、特に昨年度力を入れたのが、話合いを充実させた思考の場の工夫を行うことであった。児童が何を考えるのか焦点化することができるように、比べる、組み立てる・まとめる、いろいろな見方・考え方、分ける、つなげる、評価する、という6つの視点で思考の場を組み立てた。

これらの取組により、対話的で協働的な学びを意識した授業づくりへの教員の意識は、さらに高まってきている。また、単元全体を見通しながら、課題解決につなげる学習の振り返りの場を意図的に設定したり、時間を十分に確保したりし、振り返りの内容を次の学習に生かしつなげることなどについても少しずつではあるが、向上がみられる。算数科・特別な教科道徳と日常生活を関連付けた単元を開発することにより、児童に学ぶ必要感を持たせることができたのも昨年度の成果である。一方で昨年度末に行ったKJ法による分析では、自分の考えを積極的に伝えたり、根拠を明確にしながらかつ多様な方法で表現したりしようとすることや、児童同士で考えを繋げ、深めていくことに課題が残ったことが分かった。

また、これからの時代を生き抜く児童にとって、予測困難な場面や状況を理解して自ら目的を設定し、その目的に応じて必要な情報を見出し、情報を深く理解をして自分の考えをまとめる力、相手に伝わりやすくするための表現の工夫をし、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見出していく力は重要である。それらの力を算数科を切り口にして育てたいと考える。

そこで本年度は、次のような取り組みを行い、研究を推進していく。

【算数科】

- タブレット等を効果的に活用しながら、電子黒板も併用した単元構成や学びのサイクルによる学習過程の工夫を通して、課題を追究する力を育成する「課題発見・解決学習」の授業づくり。
- 話合いを充実させた思考の場の工夫。(話合いの形態の工夫、思考の可視化など)
- 根拠を明確にし、互いの考えを積極的に伝え合い、より思考を深めたり広げたりするための発問の工夫。
- 児童の学びを省察する場の工夫を行うことで、学びをつなぎ、自己の変容に気付いたり自己肯定感を高めたりすることができるような振り返りの場の充実。

- 支援の必要な児童を視野に入れた授業のユニバーサルデザイン化，読書活動の推進，スキルタイム（のびっこタイム）等

3 研究仮説

児童が深い学びをするための思考の場における発問の工夫を行えば，児童が主体的・協働的に取り組み，自分の考えを深めることができるであろう。

4 研究の内容

(1) 授業づくり

- 課題を追究する力を育成する「課題発見・解決学習」の授業
 - ・アンケートやレディネステストによる児童の実態把握
 - ・単元構成の工夫
 - ・学びのサイクルによる学習過程の工夫 学習計画による課題の共有
「導入」「思考を深める」「振り返り」
 - ・マネジメントサイクルに基づくカリキュラム（年間指導計画）の評価・質的改善

- 話し合い活動を充実させた思考の場の工夫
 - ・板書による思考の可視化（構造的な板書）
 - ・話し合い形態の工夫「ペアトーク」「グループトーク」
 - ・根拠を明確にした多様な表現活動
 - ・既存の知識・技能をつないだり，活用・発揮したりできるような発問の工夫

- 学習としての「評価」の充実
 - ・児童が学びを省察する場の工夫
 - ア 「振り返り」の視点の明確化（学習内容・自己変容・自己肯定感）
 - イ ループリックによる評価（教師の評価）

(2) 環境づくり

- 児童の意欲を育む学習基盤づくり
 - ・協働的な学級集団づくり
 - ・学習規律の徹底
 - ・授業のユニバーサルデザイン化

- 日常的な取組
 - ・読書活動の充実（読書タイム，読み聞かせ）
 - ・スキルタイム（のびっこタイム）の充実

5 研究の方法

(1) 理論研修（研究主題に関わる共通認識）

- 育成したい資質・能力の定義の共有
- 教科の特性を生かした授業づくりのポイント
- 学級集団づくりや学習環境づくりの視点の共有
- 学級集団づくりや学習環境づくりの視点の共有

(2) 校内授業研究（各学年1回以上の校内研実践）

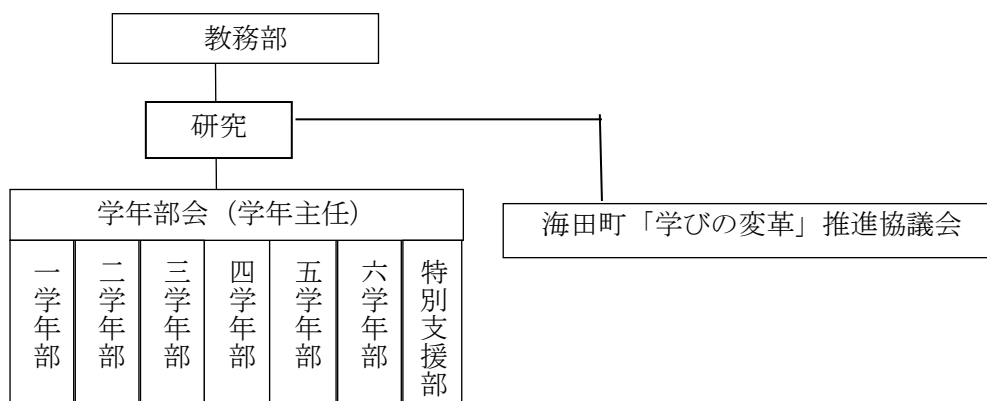
○授業実践を参観し、視点に沿って授業分析を行い検証する。

- ・児童の変容を確かめ、有効な手立てについて検証するための協働的な研究授業
- ・前回までの研究授業の課題を改善し、提案する研究授業
 - ア 学年部会で、指導案を作成、検討、修正する。必要に応じて、他のクラス等で事前授業を実施する。
 - イ 全体授業研究を行う場合は、指導案提案による事前研修を全体で実施する。必要に応じて、他のクラス等で事前授業を実施する。
- ・「算数科」の授業研究を行う。（専科や特別支援学級については、研究主題に沿うものであれば教科を問わない。）
- ・学習指導案の起案は早めに行い、授業の2週間前までに決済を受け、研究主任に提出する。配付は、学年部で3日前までに行い、参観者は事前に熟読する。全体授業指導案は講師の先生にも2週間前には送付する。
- ・授業終了後には、授業者、参加者で協議会を行う。
- ・学年授業研究は、必要に応じて他学年も参観及び協議会に参加できることとする。
- ・全体研究授業は、動画撮影しておく。授業記録（発話記録）は学年部で行う。
- ・記録者は協議会終了後、授業記録及び協議会記録をデータ保存する。
【保存先：share⇒令和5年度⇒教務部⇒研究⇒授業動画フォルダ】
- ・初任者研修の示範授業と兼ねることができる。

6 研究成果の評価・検証方法

- (1) 研究授業の検証（成果物、授業記録（グループ又は児童観察）、事後協議）
- (2) 学力調査の結果分析
- (3) 児童及び教職員の意識調査の実施と分析

7 研究の組織



※専科・日本語教室担当は各学年部に入り、研究に参加する。

※専科・日本語学級担当の授業研究は、授業実施学年の該当する学年部会で検討を行う。

※全体研究においては、授業記録（写真）及び指導案印刷配付・協議会会場準備などの役割分担を行う。

※学年研修は、学年主任が中心となり研究主任と連携しながら該当学年部で運営を行う。

8 具体的な研修計画（予定）

月	研究内容
4	校内理論研修 本年度の研究推進について 算数科・道徳科における発問の工夫について
5	校内理論研修 カリキュラム・マネジメントについて
6	校内理論研修 本質的な問い・ファシリテートについて
7	校内研修 構造的な板書, ノート指導について
8	校内研修 全国学力・学習状況調査分析
8	校内研修 授業力向上研修
9	校内研修 環境・授業のユニバーサルデザイン化
11	校内研修 算数科・道徳科における発問の工夫の分析
2	本年度の研究のふりかえりとまとめ

9 全体研究授業計画

実施時期	学年	教科
6月下旬	第4学年	算数
9月	第3学年	外国語活動
9月下旬	第1学年	算数
10月下旬	第6学年	算数
11月下旬	特別支援学級	算数
12月	第5学年	道徳
1月	第2学年	算数